

「選挙」を考える ~誰1人取り残さない選挙を作るために~

宮城県仙台第三高等学校 34班

1. 背景

近年、若者の選挙不参加率の話が話題に上がるが、障がい者の選挙にはあまり注目されておらず、その選挙環境は良くない。この現状を変えれば、障がいの有無に関わらず選挙に対する関心を高めることができるのではないかと考え、このテーマで探究を進めることにした。また、現在の日本の選挙制度では投票は書くことで

成り立つため、他の障がいよりも選挙しづらいと考えた「視覚障害」に焦点をすることにした。



視覚障がい者に対する選挙の課題

〈情報の収集方法〉

- ・演説やテレビなどから○
- ・音声読み上げ機能を使えばスマホやパソコンでも○
- ・仙台市では選挙公報の音声版や点字版を作成、送付

〈投票〉

点字投票

- ・点字器を使って点字で投票
- ・点字器は自分のものでも、投票所から借りても○

代理投票

- ・2名の代理投票補助者によって行う
→1人が記入、もう1人が記入内容が選挙人の希望どうりか確認
- ※介助人（家族など）が投票用紙に代理記入×
- ※選挙人が補助者に伝える方法は心身の状況に合わせた方法で行う



サインガイド

- ・枠内に投票先を書くために使う補助道具
- ・弱視の方が使う

サインガイド→

その他

- ・家族や介助する人、補助犬と一緒に入れる

〈問題点・課題〉

情報収集

- ・収集方法が限られる（スマホなどは使えない方もいる）
- ・選挙公報の音声版、点字版をもらっている方が少ない
- ・選挙公報の音声版、点字版では書かれていない立候補者がいる（立候補者が作ることを拒否した？）

投票

- ・会場に行きづらい 例:点字ブロックがない
- ・会場によっては点字器などの補助具がない
- ・知らない人が介助を行う不安
- ・秘密選挙の守られづらさ

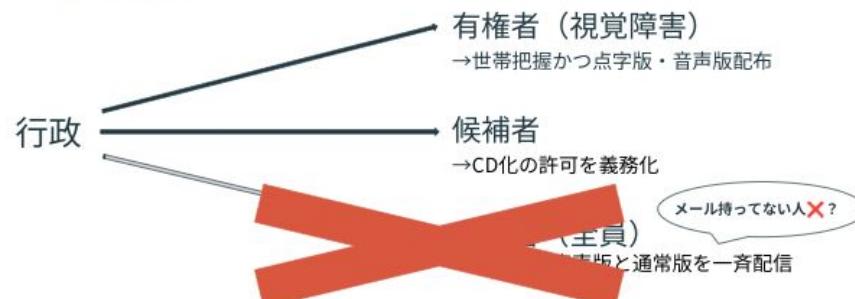
その他

- ・そもそも障がいの方の投票率が調査されていない
(独自に調査を行っている自治体はある)

3. 解決策の提案

解決策の提案

〈情報収集時〉



- ・まず何事を始めるにも行政が障がいを持つ方の世帯を把握していないことが問題であり、それを進めるのが今後の最優先事項である。
- ・また、候補者に対しても、必ず選挙公報の音声版を作らせるなどの対策が必要とされる。
- ・選挙公報のメール配信も考えていたが、新たな不平等を生む可能性があるため、提案から削除した。

解決策の提案

〈投票時〉



- ①点字器と補助具設置を義務化
- ②別室の設置or分厚めのパーテーションで仕切る



- ・アルバイト職員への教育
- ・記名式ではなく記号式にする

- ・現在の記名式はすべての人が投票しやすい方法とは言い難い。よってより簡単に意思表示のできる記号式を提案する。

4. まとめ

〈考察〉

視覚障がい者にとって投票しやすい方法でも他の障がいを持つ人にとっては投票しづらいことも。
周りの人（職員、その場に居合わせた人）がとりあえず声をかけることが大事。

〈達成事項〉

自分たちの案を固め、宮城県議会に陳情する

協力団体・参考文献

- ・仙台市選挙管理委員会、宮城県立視覚支援学校、宮城県視覚障害者情報センター、京都府視覚障害者協会
- ・代理投票・点字投票について | 八王子市公式ホームページ
- ・点字投票で投票用紙が見られた？視覚障害のある人たちの不安 | NHK | News Up | 選挙